



大学併設校としてのメリットを生かし、関西大学と連携し、大学のさまざまな授業を体験できる「中大連携プログラム」。

「もっと中高が連携したらいいのに」という意識が芽生えたり、次の代につながつていつたのだと思します。入江さん 私はいまバスケット部に入っていますが、練習で高校生と試合ができるのはすごくいい経験。やっぱり技術レベルも体力も中学生とはぜんぜん違うし、勉強になることがいっぱいです！」

島上くん それは、実は高校生にとっても貴重な機会なんです。自分もその立場になってから感じましたが、3~4歳離れた初心者の後輩に教える場合、伝え方に工夫が必要。後輩と接することで私自身も成長できたと思います。

島上くん 自分がオススメの本をプレゼンテーションする「ブックプロジェクト(BP)」かな。自学校生活で印象的な取り組みは？

渡壁さん それは、まだ高校のレベルに圧倒されるばかりだったけど、学外の本好き仲間もできて、とつてもうれしかったです！

関西大学の併設校であることをどうな影響がありましたか？

渡壁さん 関西大学との連携はいろいろありますが、特徴的なのは

自分の好きなものを紹介するからか、熱くなる人も多くて。勉強やクラブ、委員会以外にも自分をアピールできる場があるのはすごくいいと思います。BPのおかげで僕も以前より本を読むようになつたし、実際に学校図書館の貸出件数データもかなり上昇したそうですね。

入江さん 生徒会にでも入つてもいい限り、学校生活の中で大勢の人との前で話す機会はなかなかあります。とてもいいチャンスになります。

西田さん 私たちのころのBPつてクラス内で発表するだけだったのに、現在は学年の大会まであるんだね！進化してる！

渡壁さん さらに学校代表に選ばれると、外部の大会にも参加できますよ！運良く私もその代表に選ばれました。正直、実力はまだまだで他校のレベルに圧倒されるばかりだったけど、学外の本好き仲間もできて、とつてもうれしかったです！

関西大学の併設校であることをどうな影響がありましたか？

渡壁さん 関西大学との連携はいろいろありますが、特徴的なのは

の実験や、研究学生へのインタビューなど、中学のうちから、関西大学のリソースを使っていろいろな経験ができるんです。なかでも私が驚いたのは、本格的な数学研究の世界。もう「数学が趣味」みたいな人たちで「世の中にはこんな人たちがいて、こんな世界があるのか！」と衝撃でした。

入江さん 最初は、そもそも大学でどんなことが学べるのかさえよくわかつていませんでした。でも人工血管の事例を見学して「すごい！こんな形で医療に関わることもできるんだ！」と感動して今は理工学部を目指しています！

島上くん 僕は将来について漠然としていましたが、だからこそ「自分にやりたいことが見つかるかも」という気持ちで参加してみました。見学したのはコンクリートの実験だったんですが、その影響

か、いまは建築系に進みたいと考えるようになりました。

——では最後に、卒業生のお二人に、関西大学北陽で学んだこと将来の展望を交えて、後輩たちにメッセージをお願いします！

中田さん 就職活動をしていて、中高を通じていろいろな人に支えられてきたなと感じます。だから今度は僕が人を支える側になりたい、困っている人の役に立ちたいと思つて損保業界に挑戦することを決めました。後輩たちには、とにかく学校生活をがむしゃらに楽しんでほしいです！

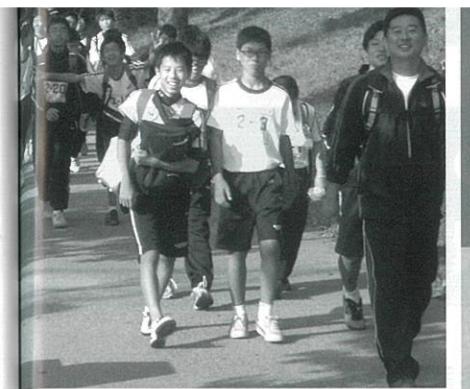
西田さん 先生方が何ごともも真摯に向き合つてくださったので、この学校に入学していかつたら、関西大学に進学できました。かつたと思います。頑張るとき、楽しむときのスイッチを切り替えて学校生活を満喫してください。

「関西大学の併設校となって10年が経ちました。生徒たちには「この学校の校風を創るのはキミたちだ」と語り続けています。さまざまな機会を与え、生徒がどんどん前に出てくれることを期待しています。いろいろなことに挑戦しながら自分の道を見つけたいという人は、ぜひ本校へ！」(中田敦夫校長)

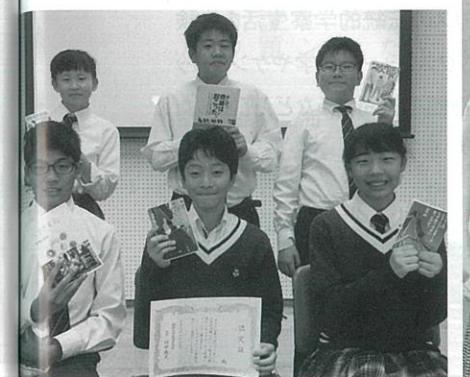
校長先生からの応援メッセージ



「関西大学の併設校となって10年が経ちました。生徒たちには「この学校の校風を創るのはキミたちだ」と語り続けています。さまざまな機会を与え、生徒がどんどん前に出てくれることを期待しています。いろいろなことに挑戦しながら自分の道を見つけたいという人は、ぜひ本校へ！」(中田敦夫校長)



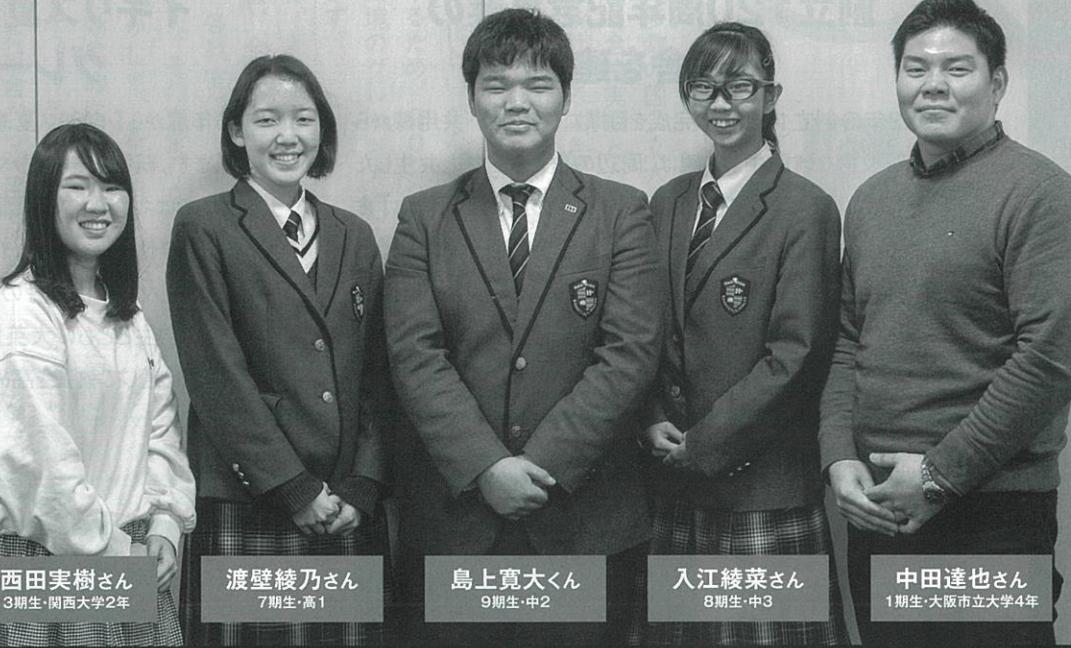
縦割りの班を組み、中学生全員でチャレンジする『ウォーキングトライ』。自然の中を歩く喜びを感じるとともに、最後には学年を超えてみんなで達成感を味わうことができる。



自分のオススメの本を皆の前に紹介する『ブックプロジェクト』。これを機に読書をする生徒も増えたという。

2008年に関西大学の併設校『関西大学北陽高等学校』となり、2010年には中学校が開校。それから10年が経過し、今春いよいよ1期生が社会へと巣立ちます。生まれ変わった母校の学びで、彼らはどう成長したのでしょうか。卒業生と在校生に、膝を突き合わせて語ってもらいました。

関西大学北陽



“先輩・後輩”そして“関西大学”二つのつながりで、僕たちは成長

中学校開校から10年。縦割りの学校行事など、先輩・後輩の接点が多いことが関西大学北陽の特徴の一つですね。島上くん 僕がまず思い浮かぶのは「体育祭」です。関西大学北陽では、中学校・高校で別々に体育祭を開催するので、中学体育祭は、中3が中心となって後輩をリードしてくれます。入江さん 今年度、中3として初めて後輩を引っ張る立場になりました。まずは、中3で団結しないといけませんし、上下関係を越えた一体感を生み出すのは難しいけれど、やりがいがありました。

西田さん 後輩をリードする経験つて大学に入つてもきっと活きてるよ！サークル活動などでリーダーシップを求められる場面は必ずくるから。

西田さん 縦割り行事の中でも『ウォーキングトライ』は名物だそうで、約25kmを踏破する中学全員での行事なんですが、中1のときなんて先輩がすごく大人に見えて、最初は「どうしよう？」と思ってました(笑)。

中田さん その緊張感は、上級生も同じ。どうやって後輩の緊張を解きほぐしてあげたらいいか、けつね。

西田さん 中学と高校ではクラブのラインナップも異なりますが、合同で活動するクラブも多数あります。高校進学とともに新しいクラブ活動に挑戦する生徒も多いですね。私も中学校ではバスケット部、高校は剣道部に入りました。将来は警察官を目指しているので、何か武道を経験しておきたくて。

中田さん 中高合同で活動するといつも、僕たち1期生のことは、高校は剣道部に入りました。将来は、中学生も高校生もお互い距離感がわからず、手探りの部分が多くありました。でも、おかげでこう頭を悩ませている。「何部に入っているの？」とか、話のきっかけをつかむことを意識していましたよ。

入江さん 長距離を歩くつらい行事ですが、おかげでいつの間にかお互いに励まし合う空気ができていましたね。最後は先輩・後輩関係なく、歌を大合唱しながら一緒に歩いたことを思い出します。

渡壁さん 先輩に声をかけられたうれしいですよね。だから私も、上級生になつたら積極的に後輩に話しかけることを心がけました。

——そうした縦割り環境は、クラブ活動においても同じですか？中高とも8割超えと、非常に高いクラブ加入率が特徴となっています。

渡壁さん 先輩に声をかけられたうれしいですね。だから私も、上級生になつたら積極的に後輩に話しかけることを心がけました。